

不登校児童生徒への対応事例13（高等学校第1学年男子）

～電話及び面接相談における対応と家庭・学校との連携～

問題の把握

当該生徒は10月から家を出ても登校しなかったり、早退したりすることが増えてきた。担任から12月に単位が不足しそうなことを告げられてから不登校になった。その後、家族との会話が少なくなり、昼夜逆転の生活になる。担任は、遅刻や欠席した際には、連絡したり家庭訪問したりするなどの対応をし、その度に当該生徒の気持ちを聴いていた。

対応状況

1 相談機関の対応

対応日	面談内容	備考
2月上旬	<p>(電話)</p> <ul style="list-style-type: none">・当該生徒の母親から、息子が不登校になり悩んでいる状況を聞く。当該生徒が本心を学校側に伝えていないことやカウンセリングを受けてみたいことなどを把握した。・解決に向け、来所相談を紹介し、保護者と当該生徒が話し合った結果、保護者とともに来所する意向を示した。 <p>-----</p> <p>(面接)</p> <ul style="list-style-type: none">・当該生徒から進路に関すること、友人との関係及び学校へ伝えたいことなどを聴き、当該生徒との信頼関係を構築した。・当該生徒は、参加したい行事のことを話すなど、登校への意欲を示し始めた。・保護者には、これまでの取組を称賛するとともに、これからも当該生徒の気持ちを受け止め続ける必要があることを助言した。・家庭と学校が協力して対応していくことの大切さを伝えた。・当機関は、いつでも相談に応じることを伝えた。	<ul style="list-style-type: none">・担任には、不登校の理由を告げずにきたが、本当は相談したいという当該生徒の気持ちを聴き出すことができた。

2 家庭・学校との連携の推進

- 当該生徒及び保護者の了解の下、学校との情報交換を行い、当該生徒の気持ちを踏まえた相談体制や登校した際の関わり方、家庭と学校との役割分担などについて確認した。
- 学校において、当該生徒の悩みをじっくりと相談できる場面を設定してもらうとともに、当該生徒の気持ちや状況について家庭と学校が情報を共有できるようにした。

3 相談者の変容

- 2月下旬に学校から、当該生徒と保護者と十分な話し合いを実施していることや、当該生徒が自ら学校行事への参加を申し出たことなどの報告があった。その後、行事などの参加を契機に登校できるようになった。
- 友人に悩みを相談したりするなど、人間関係の成長が見られつつある。

不登校の問題を速やかに解消するためのポイント

- ・初期段階で生徒が相談しやすい体制の構築と登校を促す適切な働きかけをすること。
- ・保護者、学校間で生徒へどのように対応するかなどについて、共通認識の上でそれぞれの役割を明確にすること。
- ・登校後も生徒への支援と保護者、学校間の連携を継続すること。